

---

# 白鳥の轟く頃に

台風X号

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白鳥の轟く頃に

### 【コード】

N7719U

### 【作者名】

台風X号

### 【あらすじ】

自然がお怒りになる頃にシリーズ第7弾。白鳥達にとって皆既月食とは怪奇月蝕であった。

## 七月 第一話 白星

美里町にある自然いっぱいのホテル「白星」

ここでは、11人の人々が泊まりに来ることになった。

管理人は、白沢木工<sup>はくさわむせく</sup>。男性で29歳と若い管理人。

食事は、セルフサービスになっている。そのため、ホテルの外で食べに行ってもかまわない。

俺達は、白星のホテルの庭で白鳥を見ていた。

「3月ぐらいで、白鳥とはお別れになるな。」

「今来た甲斐があったね。」

結妃美と世紀は、そう語り合っていた。

2月21日は、平和でなごみのよい日であった。

しかし2月23日に恐ろしい出来事が起ころうとは、誰もまだ疑いを持っていなかった。

七月 第一話 白星（後書き）

次回 七月第二話皆既月食の語り手。お楽しみに

## 七月 第二話 皆既月食の語り手

2月22日朝9時、舞谷は、管理人を探していた。

「なあ、上条さん。」

「舞谷さんどうしたんですか、管理人を探しているのですか。」

「そうなんだ。昼食の準備でもしてるのかなと思って厨房をこっそりとのぞいたんだがいなかった。」

「買出しにも言ったのでしょ。」

「そうだな。心配する必要がなかった。」

舞谷は安心して、ベンチに座り、空を見ていた。

月万千は、隴兄弟と一緒にいた。

隴皓が突然、狂気じみた発言をした。

「皆既月食起きる前に、自然の使徒が現れ、此処にいるみんなが殺される。」

輪田澤は、皓に言った。

「突然何だね。」

「此処にいる人は皆、14の罪を犯しているのだよ。僕もだけどね。」

「

「罪、犯してはいないぞ。」

「みんな思い出せば見えるよ。それを償えば自然の使徒も許してくれる。そして生かしてくれる。」

午後8時になり、管理人が帰ってきた。

「白沢さん、どこにいたのですか。」

「自然に償います。私は、子供を放置し、憤怒したり横暴の三つの罪を犯しました。」

七月 第二話 皆既月食の語り手（後書き）

次回 七月 第三話 運命の日。お楽しみに！

14の罪がこの後、思いもよらぬ惨劇を引き起こしていきます。

## 七月 第三話 運命の日

「自然に償います。本当に許してください。」

「自然は、こう言っている愛を失ったものには罰を与えるのが当たり前だと。」

14天の罪とは、現代版7つの大罪と本来の7つの大罪を組み合わせているものである。

憤怒、色欲、暴食、怠惰、強欲、嫉妬、傲慢

狂気、破壊、他無、金欲、差別、放置、強制

この14個のうち一つでも罪の感情を出せば、自然の力によって裁かれる。

白沢の罪は、3つ。

輪田澤は、狂気と他無だけの罪を犯しているとだけを言ったが本当だろうか？

23日の深夜2時、悲劇の始まりが風が強くなるとともに始まった。月食が始まろうとしていた。

「眠いな。んっ？ぎゃああああ！」

七月 第三話 運命の日（後書き）

次回 七月 第四話 白星内大量殺人事件。お楽しみに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7719u/>

---

白鳥の轟く頃に

2011年10月9日22時53分発行